

令和5年度 社会福祉法人一宮市社会福祉協議会事業報告書

令和5年3月17日に理事会、同年3月29日に評議員会を開催し、令和5年度事業計画及び予算案が審議可決された。これに基づき、社会福祉事業の効率的運営を図り、組織活動を推進し地域福祉の向上に資するため、次の諸事業を行った。

< 社会福祉事業 >

1. 法人運営事業

(1) 役員数	15名
理事	11名
監事	4名
(2) 評議員数	16名
(3) 役員会等の開催	
①理事会	開催回数 4回
②評議員会	開催回数 3回
③監事会	開催回数 2回
④評議員選任・解任委員会	開催回数 1回

2. 企画・広報事業

(1) 市民福祉基金等への寄付者を顕彰 顕彰者数 10件

(2) ウェブサイトによる情報提供

分かりやすい情報提供並びに、ブログによりいち早く最新の情報を提供した（ボランティア情報等）

(3) 一宮市と一体的に策定した地域福祉活動計画の周知を図った。

3. 地域福祉活動推進事業

会員会費等を財源として、社会福祉事業を実施し、支会組織の充実強化並びに地域福祉活動を推進した。

(1) 会員

①一般 3,355口 ②団体 733件 ③法人 60件

(2) 地域福祉活動推進事業

① 支会活動費

- ・ 支会活動交付金 47,308,635円（会費総額の90%）
- ・ 支会活動助成金 44,135円（見守りネットワーク事業）

②地域活動振興費

- ・支会活動交付金 5,256,515 円（会費総額の 10%）
- ・共同募金実績割 2,450,000 円（前年度共同募金実績額の 7%）

③災害時要援護者支援活動費

災害時における、ひとり暮らし高齢者・障害者など災害時要援護者の支援体制整備、平時からの見守り体制整備等を図るため、災害時要援護者支援活動事業を実施した。

- ・地域支援者（町会長・民生児童委員）による災害時要援護者支援制度の登録者の登録内容の確認
- ・避難所や避難経路の確認
- ・災害時要援護者支援制度の周知や新規登録の促進

No.	支会名	登録者数	登録内容 変更者数	登録内容 変更率	新規 登録者数
1	貴船	79	9	11.4%	13
2	神山	118	26	22.0%	1
3	大志	36	8	22.2%	2
4	向山	116	24	20.7%	20
5	富士	56	8	14.3%	3
6	丹陽	66	29	43.9%	0
7	北方	143	13	9.1%	5
8	朝日	129	30	23.3%	43
9	木曾川町	132	42	31.8%	6
合計		875	189	21.6% <small>(平均)</small>	93

(3)支会長・民生児童委員会会長合同研修の開催

開催日：1月30日 参加者：41名

【事例報告】

- ・ビルドアップを目指した大志防災体制（大志）
- ・災害に備えた見守り体制「大毛モデル」の紹介（葉栗）

4. ボランティアセンター活動事業

地域住民の社会貢献に関する理解と関心を深め、ボランティア活動の育成援助と必要な連絡調整を密にし、社会福祉の増進を図るため、ボランティアセンター事業を推進した。

- (1) ボランティア登録者数 316 グループ（7,653名） 個人 86名
- (2) ボランティア活動保険料の一部を補助し、ボランティア活動を援助した。 5,178名

(3) 各種ボランティア養成講座を開催した。(写真①②)

	講座名	開始日	回数	受講者	定員
1	声で伝えるボランティア講座	6月14日	10	9	20
2	点訳講習会	6月26日	10	15	20
3	手話奉仕員養成研修(基礎)	6月28日	25	11	20
4	手話奉仕員養成研修(入門)	7月11日	20	17	20
5	夏休みこども点字教室	8月3日	5	11	12
6	夏休みこども手話教室	7月26日	5	30	30
7	こどもボランティアスクール	7月27日	6	12	20
8	防災ボランティアコーディネーター養成講座	7月29日 7月30日	2	23	30
9	傾聴ボランティア養成講座	2月29日	3	30	30
10	視覚障害者ガイドヘルプ講習会	3月4日	1	14	20

(4) 声の広報を発行した。(市広報 月1回、社協広報紙 年3回、保健所だより 年2回 議会だより 138 年4回、をカセットテープ及びCDに吹込み、視覚障害者に郵送した。)

延べ人数 カセット 119名、CD 265名

(5) 西尾張ブロックボランティアフェスティバルを弥富市において開催した。

開催日：1月21日 会場：弥富市総合社会教育センター 参加者：約400名

(6) 青少年等ボランティア福祉体験学習

実施期間：7月24日～8月25日 参加校：24校 参加生徒延べ229名

受入施設：39施設

(7) 家庭体験事業

施設で生活している子どもたちに、ボランティアの家族とのふれあいを通して、家庭生活を体験する機会を調整した。※実績なし

(8) ボランティアセンター運営委員会

一宮市におけるボランティア活動推進に必要な取り組みについて協議をした。

開催日：6月9日、3月22日

(9) ボランティア活動の啓発を図り、市民に参加を呼び掛けるため「いちのみやボランティアフェスティバル2023」を開催した。(写真③)

開催日：10月15日 会場：一宮スポーツ文化センター

来場者：2,800名 出展団体：35団体

(10) ボランティア活動の活性化を図るため、ボランティア活動希望者とボランティア団体を引き合わせる「ボラまっち一宮」を開催した。

開催日：3月3日 会場：オリナス一宮

来場者：延べ254名 出展団体：12団体

5. 共同募金配分金事業

配分金事業として各種事業を実施した。

(1) 高齢者福祉活動事業

①各支会が実施する敬老の日行事の費用の一部を助成した。

実施時期：9月・10月 対象者：満77歳以上 総対象者数：50,061名

②老人クラブ連合会事業に協力し助成した。

③数え年100歳の高齢者に対し、長寿祝金を贈った。 122名

(2) 障害児・者福祉活動事業

①障害者団体・施設に助成した。

②市内における障害者スポーツ環境を整えるため検討会を開催した。

3回（5月24日、11月29日、3月1日）

③全市的なイベントとして、ユニバーサルスポーツ体験交流会を開催した。

（写真④）

開催日：3月17日 会場：いちのみや中央プラザ

参加者：102名（協力者含む）

④就学前の幼児と障害のある児童を対象にした「おもちゃ図書館」を開設し、遊びを通じて楽しいふれあいと、子育ての情報交換の場を提供した。

2か所 利用人数：延べ1,827名

（内訳）おもちゃの城 876名 なかよし 951名

⑤日常生活の便宜を図るため、身体に障害がある者、または疾病等で一時的に必要な者等に車椅子を貸出した。

車椅子の貸出し 650回（車いすドクターズにより年1回点検）（写真⑤）

(3) 児童・青少年福祉活動事業

①児童生徒の福祉善行精神を高揚するため、小中学校の児童生徒の表彰を実施した。

62名

②福祉推進校に協力し助成した。

66校

③子ども会等各事業に助成した。

④福祉実践教室を開催した。（写真⑥）

62校

⑤こども盲導犬教室を開催した。 開催日：12月27日 参加者：46名

⑥児童養護施設・母子生活支援施設に入所している児童への新年祝品を贈呈した。

4 施設 104 名

(4) 福祉育成・援助活動事業

①生活困窮者等に法外扶助給付を実施した。 0 件

②行旅人に移送費を支給した。 3 件

③生活保護世帯の保育園児に給食費の一部を支給した。 延べ人数 319 名

④生活保護世帯の児童・生徒の修学旅行費の一部を支給した。

小学校 17 名、中学校 15 名

⑤福祉育成・援助活動事業等を行う団体に協力し助成した。

⑥社協広報紙「いちのみやの社会福祉」を年 3 回発行し、本会の活動及び実施事業全般についての啓発に努めた。 6・10・2 月号 各 144,200 部（全戸配布）

⑦福祉のまちづくり運動を推進した。

市民の福祉への関心を高めるため福祉七夕笹を尾西庁舎玄関前へ飾った。（写真⑦）

6 月 25 日 ～ 7 月 7 日

福祉作品展（びさいまつり同時開催）において福祉団体・ボランティア団体の手作り作品を展示即売し、市民に福祉の啓発を行った。

⑧ふれあい・いきいきサロン活動に援助、協力した。

・運営費補助 79 サロン

・立上げ時物品購入補助 3 サロン

・ふれあい・いきいきサロンリーダー交流会の開催（写真⑧）

開催日：3 月 15 日 参加者：46 名

・出張サロン 実績なし

(5) ボランティア活動育成事業

①地区ボランティア活動推進に助成した。 23 支会

②登録ボランティアグループの活動の振興を図るため、助成した。 41 団体

6. 資金貸付事業

民生児童委員との連携を図り低所得者等の自立の援助に努めた。

(1) 県社会福祉協議会の生活福祉資金申請受付代行

①福祉費 申請受付 1 件

(1 件 300,000 円が貸付決定)

②教育支援資金 申請受付 8 件

(8 件 21,192,000 円が貸付決定)

③臨時特例つなぎ資金 申請受付 3 件

(3 件 90,000 円が貸付決定)

④不動産担保型生活資金	申請受付 1件 (1件 6,783,000円が貸付決定)
⑤緊急小口資金	申請受付 39件 (37件 1,714,000円が貸付決定)
⑥総合支援資金	実績なし
(2)生活資金	実績なし
(3)福祉金庫	貸付件数 1件 30,000円
(4)くらし資金	実績なし

7. 居宅介護等事業

訪問介護員が介護保険法及び障害者総合支援法に基づく、居宅介護サービスの提供及び市から受託した育児支援事業を実施した。

(1) 指定訪問介護事業 (介護保険事業)	サービス提供回数	延べ	19,360回
(2) 指定居宅介護事業 (障害福祉サービス事業)	サービス提供回数	延べ	17,107回
(3) 移動支援事業	サービス提供回数	延べ	1,941回
(4) 育児支援家庭訪問事業	サービス提供回数	延べ	178回

8. 居宅介護支援事業等

介護支援専門員が介護保険法に基づく、居宅介護支援及びあんしん介護予防事業における介護予防ケアマネジメントを行った。

また、市から受託した介護認定調査（新規・区分変更）を行った。

(1) 介護認定調査（更新）	延べ	76件
(2) 要介護ケアプラン作成	延べ	1,696件
(3) 介護予防ケアプラン作成	延べ	505件
(4) 事業対象者ケアプラン作成	延べ	67件
(5) 介護認定調査（新規・区分変更）	延べ	170件

9. 相談支援事業

相談支援専門員が障害児・者及びその家族等からの相談に応じ、問題解決に取り組んだ。

また、契約に基づき「サービス等利用計画の作成」・「モニタリングの実施」を行った。

(1) 相談支援	延べ	13,792件
(2) 計画等作成	延べ	922件

10. 福祉サービス利用援助事業

県社協からの受託事業として自らの判断で適切な福祉サービスを受けることが困難な認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等が地域で自立した生活が送れるように福祉サービスの利用援助、日常的金銭管理サービス、書類等の預かりサービスを行った。

利用者数 92名（令和5年度末時点） うち新規契約者数 10名 解約者数 12名

11. 市受託事業

市からの受託で各事業を実施

(1) 重層的支援体制整備事業への移行準備事業

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、対象者の属性を問わない相談支援、多様な参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に展開し、包括的な支援体制整備に向けた事業実施の準備を行った。

【受託事業】多機関協働事業／アウトリーチを通じた継続的支援事業／参加支援

(2) 生活支援体制整備事業

①地域において多様な生活支援サービスを提供する仕組みを構築するため、第1層生活支援コーディネーターとして各種団体の連携強化を図った。

②第2層生活支援コーディネーターと連携を図り、必要に応じて地域分析や必要な施策を検討し地域住民と情報を共有した。

③本事業を推進するため、丹陽町連区と大和町連区を対象にした地域支え合い研修を実施し、普段のつながりの大切さを普及啓発した。

開催日：6月22日(丹陽町) 受講者：44名

開催日：10月18日(大和町) 受講者：30名

④住民相互の助け合いによる会員制の生活支援サービス「ちょこボラサービス」を実施した。

利用会員 514名 協力会員 134名

サービス提供時間 延べ 1,489時間

⑤高齢者（65歳以上）を対象にした「気軽に学べるスマホ講座」を開催した。

(写真⑨)

開催日：7月28日(午前のみ)、12月15日(午前・午後) 受講者：延べ49名

(3) 視覚障害者パソコン教室事業

目の不自由な方を対象に、パソコン教室を開催した。

講習回数：延べ49回

対象者：市内の視覚障害者 受講者：5名

(4) 子どもに対する学習・生活支援事業

市内 4 ヶ所において、高等学校等への進学を目指す中学生を対象に、学習・生活支援を行った。

開催日：原則、第 1～4 土曜日 9 時 30 分～11 時（全 46 回）

利用者：57 名（うち中学 1 年生 17 名、2 年生 15 名、3 年生 25 名）

※中学 3 年生 25 名のうち 23 名が高校進学

12. 基金運営事業等

基金の適正な運用に努めた。その利息及び寄付金（市民福祉）をひとり暮らし高齢者とのふれあい事業等に活用した。（写真⑩）

<収益事業>

自動販売機設置事業

一宮市立市民病院等に飲料自動販売機を 10 台設置し、来所者の利便を図り、その収益の一部を本会の貴重な財源として充当した。

市民病院に令和 5 年度限定で新たに 3 台設置したことにより、手数料収入が増となった。

手数料収入 2, 255, 671 円

<文書公開の実施状況>

申出件数 0 件